

ライネルのムッキムキに勃起して大きく膨らんだデカチンポがブラの美しいオマンコにズッポリと飲み込まれていく。

「あはあん♡♡デカチンポ、すごお〜い♡」

「パンパンパンパンパン♡」

いきなり激しいピストンを繰り返すライネル。

「きゃあ〜ん♡かたあ〜い♡ふとお〜い♡」

「パンパンパンパンパン♡」

「パコパコ、パコパコ、きんもちいい♡オチンポ、凄〜いい♡♡」

ライネルはブラの腰を掴んでバックピストンを繰り返している。舌を出し、勝ち誇った表情で快樂を楽しんでいる。一方、ブラは、壁にオッパイを押し当て、顔面を真っ赤に蒸気させ、熱い桃色吐息を吐きながら、舌だシアへ顔をキメていた。ノワと俺だけが蚊帳の外だった。ブラの「アン♡アン♡」という喘ぎ声と、ライネルの「はあはあ♡ふんふん♡」という荒い吐息だけがこだましている。

「パンパンパンパンパン♡」

「あ♡あ♡ああ♡もう・・・ダミい♡」

「ぬっぽん♡」

「ブシュウ♡ブシュ♡ブシュ♡ブシュ♡」

デカチンをオマンコの外に弾き出し、大潮吹きをキメるブラ。

「ああん♡いっぱい出ちやったああ♡」

「こらあ♡まだ終わんねーぞ♡」

再度デカチンを挿入するライネル。

「おほお♡またキタァ♡」

ライネルはブラのデカパイを後ろから鷲掴みにし、グニグニと揉みまくりながら、先ほどよりも体重を前にかけた。

「おおおお♡奥に♡当たるう♡これ♡すんごお♡」

強烈な快感にマジアヘアホ顔をさらすブラ。

「ここだろ！？ボルチオ♡ダーリンじゃあ届かないよなあ〜！？」

「ヒィィ♡コツコツ当たるう♡奥に当たってるう〜♡エクセリオン様じゃあ、届かないところ、犯されてるう〜♡気持ちいいん♡きもちいいん♡」

「コツコツ、パコパコ、ハメまくられてえ♡オマンコがデカチンの型、覚えちゃう〜♡」

「オラオラオラオラァ♡」

「ズコズコズコズコォ♡」

「イク♡イク♡イクウ♡」

「ブ、ブラ・・・すごおい、・♡」指を咥えてガン見するノワ。

「オラァ♡ダーリンと俺のチンポ、どっちがいい！？」とライネル。

「そ、そんなことお♡い、言えなあ♡い♡」

「ああん！？チンポ抜いちゃうぞ♥」急にパコハメの速度が落ちる。

「あ♥やあん♥抜かないでえ〜♥」

「なら、答えろよ！？大丈夫、外には聞こえないから♥」とライネル。

「あ♥・・・え・・・♥っとお♥」

「抜いちゃうぞ♥」とライネル。

「アヒィ♥こっちのデカチンポですう♥ライネルのデカチンポの方がいいですう♥」

「はあ〜✕声がちっちゃくて聞こえない」

「ぬぼん♥」デカチンを引き抜くライネル。

「あ♥いやあ〜♥ダメェ〜〜〜♥」

「なら、言え♥どっちのチンポがいいのか♥」

ブラの耳元で囁くライネル。

「ライネルのオチンチンの方が、気持ちいいのお♥デカくてぶっとくて、ゴリゴリ硬いのお♥長くて奥に届いて、マジでオマンコ、痺れちゃうのお♥」

「よお〜し！ダーリンの負け組雑魚ペニスより俺の勝ち組イケメンデカチンポの方が好きだって言え！！言わねーと、チンチンあげね〜！！」

「ダーリンの負け組クソ雑魚ペニスなんかより、イケメンデカデカ勝ち組チンポの方がいいですう♥大好きですう♥この発情しまくったエロウサギにハメハメしてくださ〜い♥♥」

「よく言えました♥ブチュ♥」